東京三高会だより
第32号
平成27年6月1日発行

三木野ヶ原

発行：東京三高会　青森県立三本木高等学校同窓会東京支部　発行責任者　佐々木文雄

事務局　〒335-0001 埼玉県蕨市北町 4-1-5-503　高谷隆二　Tel&Fax 048-442-5118／編集責任者　瀬戸口玲子

同窓会、世代を超えた母校つながりは、新しい出会いも生まれる場所。

第36回総会・懇親会をなごやかに開催

昨年７月13日、新会場は神保町の歴史ある「学士会館」。年一度集う懐かしい仲間と過ごす楽しさに、元気を貰いました。

東京研修をサポート

中３の瞳に東京はどう映るだろうか。例年行事の附属中三年次の東京研修。今年は東京三高会が全面的にバックアップ。先輩の仕事先を訪ねる企画が実現。

学校を飛び出して見聞きする経験は、自分の進路に幅広い視点を養う良い機会。昨年、東大本郷キャンパスを訪れた後輩達

校長
メッセージ

好きこそものの上手なれ

校長　福井 武久

小さい頃、テレビ番組「兼高かおる世界の旅」が大好きでした。品の良い美しい日本人女性が、未開の奥地も何のその世界各地を一人で旅し、現地をリポートするというものです。今でこそ「世界不思議発見」など類似の番組が数多ありますが、交通の不便なかつ情報の少ない当時としては、画期的な番組だったと思います。その番組に触発された私は、小学校四年生で初めて手にした地図帳を毎日むさぼり眺め、まるで自分が旅したかのように夢を膨らませていました。「好きこそ物の上手なれ」とはよく言ったもので、その後は、自然と地理・歴史に興味関心を抱き、自ら進んで勉強するようになり、当然の如く社会科は得意教科になりました。今では、地理・歴史の勉強がライフワークになっており、出張や旅行の際、空き時間を見つけては好んでその土地の名所旧跡を巡っています。理科（化学）教師なのに…。

最近では、上京するたびに都内を散策しています。主なコースは、浅草や秋葉原など人で賑わう観光地ではなく、「歩く地図東京散歩」（成美堂出版）に紹介されている数時間ぶらぶら散歩できる生活感溢れる場所です。ここ数年で、六義園、柴又、浜離宮、泉岳寺、神楽坂、人形町、日本橋～隅田川、亀戸～京橋、護国寺～雑司ヶ谷、谷中～根津、築地～月島など、今まで知らなかった東京風情を満喫することができました。一番の楽しみは、行く先々で歴史に関する石碑や案内板を発見することで、わくわく感満載で長時間歩くことも全く気になりません。この時ばかりは、東京に住んでいる方を羨ましくさえ思えます。退職後の夢は、箱根大学駅伝コースや四国八十八箇所の霊場を歩いて巡ることです。その時までに、東京はじめ全国各地の歴史探訪を続け、健脚を鍛えるつもりです。

毎年美しく咲いてくれる校庭の桜の下、七戸事務長と一緒に

さて、本校は、この春三月に中高一貫教育三期生の卒業生を輩出しました。一、二期生の活躍に比べれば、難関大学で苦戦し国公立大学合格者数も伸び悩みましたが、医学科四名合格は堅持することができました。中でも大阪大学医学科合格は、県内でもあまり聞かない快挙だと思っています。

今年度は、本校の校長三年目の年で、自分が入学許可した生徒の卒業時に当たり、管理職としての真価が問われる年です。優秀な、そして前途を嘱望される生徒のいる学校に奉職できる幸せをかみしめ、一層職務に邁進する所存です。また、来年度、高等学校九十周年、附属中学校十周年の節目の年を迎えます。後援会、同窓会、PTAと学校が組織する記念事業協賛会も動き出しました。この機に、更なる教育の充実を目指し、教職員一丸となって三高の名をさらに高めたいと思っています。

結びに、附属中学校三年生が、例年実施している一泊二日の東京研修で、かねてからの願いであった同窓生が関係する職場訪問が、今年度七期生で初めて実現することとなりました。これもひとえに東京三高会の絶大なる御支援のお陰と感謝しております。同窓生の皆様（先輩）の差し伸べた手が、必ずや生徒達（後輩）が何か好きなことをみつける契機につながるはずです。この紙面をお借りして、厚く御礼申し上げます。

中高生全体の約56%が自転車通学。ずらりと並ぶ自転車は、いつもながら圧巻

平成27年度　本部同窓会総会・懇親会のご案内

毎年、十和田市在住の恩師の方々をご招待して、本校同窓会を開催しています。帰郷の折りにはぜひお誘い合わせてご出席ください。
日時／8月1日（土）午後5時～7時　会場／富士屋グランドホール
会費／4,000円　連絡先／三高同窓会事務局（0176-23-4181）

会長メッセージ

母校とのつながり 今年、新たな試みが実現

会長　佐々木文雄（S36年卒）

母校の附属中学校では、三年次に都内の大学や企業を見学する東京視察研修を行っていますが、学校側からの依頼を受け、今年は東京三高会がアシストすることに。先輩が関係する7か所の訪問先が決定しました。6月25日に十和田市を発ってくる後輩達を迎え、案内役も務めます。当会の思いの「世代を超えて」、まさしく新しい交流の場が生まれることとなりました。

多岐にわたる情報がインターネットで瞬時に手に入る時代ですが、このような先輩同窓生と接する視察研修の場が、自分の進路への視点がより大きく広がっていく一つのきっかけとなればと願っています。ちなみに「現代の名工」に選ばれた小川三夫氏は、修学旅行で法隆寺を見て感激し、宮大工を志したそうです。将来への希望に胸膨らませた我々の時代は遠くなりましたが、これからの可能性をたくさん秘めた生徒達が学ぶ母校、ますますの発展を期待しています。

第37回目となる総会・懇親会で、会員の皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。ぜひご参加ください。

（相模原市在住）

三高の、今

三高となぎなたと、わたし

元三本木高校体育教師・十和田市なぎなた協会会長
小林 輝子（S26年度卒）

恩師が見守る体育館に、今日も逞しい後輩たちの声が響きます。

私は、今の三本木高校の前身「高等女学校」の最後の入学生。六年間の在学を経た卒業時は「男女共学三本木高校一回生」となっていました。その後、体育教師として母校で10年、三農勤務14年、その後再び母校で14年務めました。生徒時代を含め三高で過ごした30年間はとても恵まれていたと思います。

三農勤務から三高に舞い戻るきっかけは昭和五十五年の指導要領の改訂でした。高校体育に武道必修が課せられたのです。場所も道具も指導者もいない状態での武道必修に、高校体育界は大混乱でした。そんな時、当時の小沼正俊校長から「女生徒の武道として、なぎなたを取り入れたいから三高に戻ってきて欲しい」との要請が。以前から大学の恩師を中心に稽古をしていたので指導は可能でしたが、仲間と共通していた思いは「国体に参加出来ない青森県と言われたくない」という意地でした。

女子武道教育者として「なぎなた指導」をスタートさせた小林先生。常に高成績を期待される部活動の中にその伝統が輝いている。

三高に舞い戻った年、県内唯一の女子武道「なぎなた」の授業がスタート。三学年女子1単位をなぎなたとし、指導目標に「①品位と気位を高く　②集中力を高め　③進路全うの気迫の高揚」を掲げました。県教委などの視察も多く特異性が注目されましたが、後に着任された校長に、「本校の女子の進路は、学校の先生と看護婦しか無いのか」と言われて、三高OBとしては燃えに燃えましたよ。

部活動としては、校舎屋上で稽古をした愛好会から始まり、やがてなぎなた部に昇格。ただし活動場所は十和田市志道館。移動の不便さにも耐えてよく頑張りましたね。袴姿で自転車こいで移動する光景は三高通りの名物でした。部活動の目標に「①必要な時に、必要な力が出せること　②進路達成の意志力の養成」を掲げて活動しました。現在は第2体育館で活動しています。

平成六年の三高退職前に、文部省の研究会で事例発表の機会が与えられましたが、私が提示した資料の中で注目されたのは、三学年二〇九名の教え子たちの感想文でした。一部を紹介しましょう。

［MMさん］気位を　なぎなたを持ちて　われ学ぶ／試合にて　くやしさかんじた　身長差／なぎなたに　気迫を込めて剣あわせ　しらずしらずに一歩踏み出す／四月には恥じらい感じ　声を出す寂しさ覚ゆ　十二月／三高で　伝統文化学びしに　楽しさを知り　我卒業す

［KKさん］何であれ意図的に人を傷つけることに挑むのが武道だという考え方から、なぎなたの授業に直接参加することはありませんでしたが、その態度を理解し認めて下さった先生に感謝します。授業の中で教えられたのは礼儀作法とその精神でした（省略）。

平成六年、大きな学校指導要領の改訂があり、高校体育の武道必修が解かれました。そして、学校週休二日制が実施されて、我が国の教育環境が大きく変わっていったのです。

現在、三高なぎなた部は、OBがコーチを勤め、二名の顧問と十和田市なぎなた協会が一緒になって強化に努めています。一昨年は男子部員三名全員が東北大学に合格、嬉しかったです。退職して21年、今もコーチとして、孫みたいな高校生達と稽古するのが、私の生き甲斐になりました。ありがたいことです。

福村 梨紗

三本木高校三年
なぎなた部部長

先生に初めて接した時に感じた明るくて和やかな雰囲気。私たちの緊張はすぐに薄れていきました。でも稽古が始めると、一転して真剣な眼差しに。先生の丁寧で的確なご指導のもと、なぎなたの一から十までをしっかりと学び、大会ではいい結果を残すことが出来ました。これからも技を究め、稽古に励み、先生に教わったことを後輩に受け継いでいきます。小林先生、いつまでもお元気で私たちを指導してください！

三高卒業おめでとう――H27年3月卒のみなさん

泉　香子（いずみ きょうこ）さん

看板をぶら下げているのが私

私はスクールカウンセラーを目指して東京学芸大学に進学しました。心理学に興味があった私は、三高卒でこの大学出身の臨床心理学士の方に話を聞く機会がありました。その話を通して大学の魅力を知り、進学したいという意志が強くなりました。

大学では、思春期の子ども達が抱える心理的課題や、子どもと教師・親の有効な関わりについて研究したいと考えています。そして悩みを抱えた子ども達一人ひとりに向き合い、前向きに学校生活を送れるよう支援したいです。

前列右から2番目が私

中学・高校の6年間、たくさんのかたに支えられました。これからは多くの人を支え、心の拠り所となるカウンセラーを目指します。

古内壱成（ふるうちいっせい）くん

私は日本大学に進学しました。将来は建築士になり、ひとびとに安心と快適、そしてバリアフリーという三つの温かさを提供したいと思ったからです。さらには不動産の資格を取得して、父と新しい企業を興したいです。そのためにもやるべきことが沢山ありますが、一歩ずつ確かな足取りで進みたいです。

春から始まる大学生活には不安もありますが、これから新しい出会いや発見への期待で一杯です。一生にいちどの大学生活を充実したものにするためにも勉学に励み、積極的な前向きな姿勢で生活したいです。そして、これまでの18年間をささえてくれた多くの人たちへの感謝の気持ちを忘れず、目標に向かって努力し続けます。

浅野美咲子（あさのみさこ）さん

私は東京家政大学に進学しました。志望した理由はスクールカウンセラーになるために心理学を学びたいと思いました。心理学を学びながら養護教諭資格を取れ、将来進む職業として多くの選択肢があることに魅力を感じたからです。

夢を打ち明けた時、黙って背中を押してくれた家族、厳しく優しく指導してくれた先生、相談に乗ってくれた友人がいてくれたから、新たな一歩を踏み出せました。大学での目標は、指定大学院に進み臨床心理士資格取得。夢の実現のため、知識を身に付けるだけでなく、発見、出会いなども大切にし自主性、協調性のある自律した女性になりたいです。

左側が私

会員からの便り

創造すること
シュタイナー学校での実践を通して

増渕（ますぶち） 智（さとし）（S61年卒）
学校法人シュタイナー学園初等部教員
前高等部校長

「増渕、これ読んでみたら。」今から二十数年前、北海道の教育大学で学んでいた私に、友人が一冊の本を渡してくれました。それが「ミュンヘンの中学生」（子安美知子著　朝日文庫）でした。娘をドイツのシュタイナー学校に通わせた著者が、親として、また教育者としての視点からシュタイナー学校の様子を生き生きと描写した著作です。

テストもなく、毎朝一科目を二時間ほど集中的に学ぶ授業を三、四週間続ける「エポック授業」。算数であっても詩を唱え、歌を歌い、体を使って数を数え、というように五感をフルに使い、芸術的に構成、展開される授業の様子に大いに魅了され、興奮が冷めやりませんでした。この本が出た後、多くの若者がシュタイナー教育を学びに海を渡るのですが、私もその一人でした。

シュタイナー学校は、今から約一五〇年前にオーストリアに生まれたルドルフ・シュタイナーが提唱した人間観を土台としています。欧米を中心に広がっていきましたが、現在では全世界で一〇〇〇校以上のシュタイナー学校があり、近年は韓国、中国、台湾などアジアでも学校づくりが盛んになっています。今年四月、アジアのシュタイナー学校教員の国際会議が、一週間本学園で行われました。

一九九二年から二年間、私はイギリスのエマーソンカレッジで学び、その後、三鷹市の東京シュタイナーシューレ（俳優の斎藤工くんの母校、現学校法人シュタイナー学園）でクラス担任として教えることになりました。当時は六学年合わせて、40人に満たない小さな寺子屋のような無認可の学校でしたが、その後NPO法人格を取得、二〇〇五年には神奈川県の藤野町（現相模原市）に移り特区を使って学校法人となりました。ただしそれは初等部、中等部のみで、高等部が法人化されたのは三年前の二〇一二年でした。

十年前に藤野に移った初年度は、高等部の自前の校舎はなく、駅近くの酒屋さんの二階倉庫を改装し教室に使いました。たった八人の生徒たちと床や壁の内装作業をしたのですが、それを覚悟でやってきた彼らは、いよいよシュタイナー学校の高等部での学びがスタートする喜びに溢れていました。

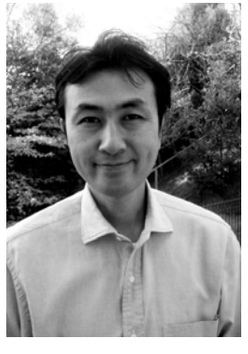
そして、翌年には校舎を生徒が中心になって作るプロジェクトが始まりました。もちろん教師も常に共に作業し、週末には保護者も応援に。生徒にとってはめったに出来ない学びの場となりました。傾斜地をスコップで削り、崩した土を何百回となく運び出し整地。砂利を敷き、転圧機で平地にした上に型枠を置き、生コンクリートを流し込む。そんな作業が四ヶ月続きました。基礎ができた後は、ドームハウスの外枠を乗せ、外壁、屋根張り、最後の内装仕上げ。三月から始まった作業は、息が白くなってきた十一月に完成、八ヶ月を要しました。完成した校舎を見て「やったー！」と声を上げた彼ら。その喜びの姿には、やり遂げた達成感もさることながら、やっと教室で座って勉強できる安堵感も感じられました。事実、通常授業が再開してからは、彼らの真面目で集中した向かい方には目を見張ったものです。

今では高等部だけで77名の生徒が学び設備も整いましたが、今の在校生には、初めの卒業生たちのパイオニアとしての創造力とたくましさを、別なアプローチを通してつかんで貰いたいと願っています。NPO時代にはできなかった生徒会活動や、シュタイナー学校間の高等部交流会、エネルギー問題を考えるプロジェクトなど、生徒主体の活動や学びがどんどん始まっています。

また、総合的な学びの一環として最終学年である12年生（高等部三年生）は、毎年夏にクラス演劇に取り組みます。舞台装置、衣装、音楽、パンフレットなど、台本以外は全て彼らの手作りです。そこでも生徒の創造性が芸術的な形で発揮されます。こちらは本学園のホームページで公開していますので、ぜひご覧ください。

（相模原市在住）

高等部卒業演劇。昨年は「リア王」を上演



皆さんの近況やご意見、思い出など、ぜひ気軽にお寄せ下さい。
メールアドレス：r.setoguchi@tokyo-sanko.net　Fax 042-664-0940
編集責任者　瀬戸口玲子（S41年卒）

故郷と母校の流れを渡る。

田中（たなか） 真理子（まりこ）（S56年卒）
自営業

昨年の夏に故郷十和田市に本当に久々に帰省しました。三年前に亡くなった主人の闘病生活がはじまってから、緊急の用件で一泊した四年前を省くと、しっかり故郷の空気を味わうのは、実に八年ぶりでした。

三本木高校を卒業してから早三十五年の月日がたちました。迷路のような人生でした。卒業後、仙台の美容学校に進路が決まっていましたが、家の事情で断念。上京し、色々なアルバイトを経験した後、ようやく横浜で消費者金融会社に就職。暮らしが安定し、二十四歳で結婚し、娘を二人出産。今ではどちらも成人し、一人は今年の春にアメリカに嫁いでゆきました。そして今、私は一人に戻りました。主人が元気な頃は、お盆には毎年帰省していましたが、亡くなってから何かと慌しくままなりませんでした。そして昨年、ようやく、色んな事が一通り整理され、帰省できました。

元町の実家では、のんびりと近所をぐるりと散歩しました。もの凄く様変わりした故郷を見ました。懐かしかった十和田市駅がなくなり、線路もなくなり、だんだんと悲しくなってきました。けど、橋の真ん中から見た稲生川だけは変わっていませんでした。溢れ出そうなくらいの豊富な水の量、まっすぐな流れは、昔と全然変わっていなかった。それだけで、ちょっとうれしくなりました。

翌日、思い立って自転車で太素塚に向かいました。前日の稲生川を見て、東京で三十五年ぶりに再会した三高の先輩からの「新渡戸記念館に行っ

新渡戸館長と一緒に記念写真

たらいい」という言葉を思い出しました。太素塚には行った記憶はあるけど、記念館ははじめて。おそるおそる受付を済ませ、受付の方に紹介してくれた先輩の名前を言うと、何といきなり事務所に通され、館長の新渡戸常憲さんと直接お会いできました。そこで初めて館長が三高の卒業生だと知り、感無量。館長が館内をご案内くださり、うろ覚えだった開祖新渡戸傳さんから始まる十和田の開拓史と稲生川ができるまでのたくさんの人々の苦労を知ることができました。その日の太素塚の体験で、故郷十和田、稲生川、三本木高校、新渡戸記念館、途切れ途切れだった私の記憶が結ばれた気がしました。

帰省最終日、十和田湖に行きました。遊覧船で休屋へ。帰りはじっくりと奥入瀬渓流の流れを見ました。この水の流れが稲生川につながり、十和田に届いているんだ！と考えたら、新渡戸傳さんって凄い！とあらためて感じました。しばらくの間、せき止められていたような私の人生が、また勢いよく流れ出した気がしました。

（横浜市在住）

第37回東京三高会総会・懇親会にご参加ください

日　時　平成27年7月5日（日）
午後1：00　受付開始
午後1：30～4：30　総会・懇親会

会　場　学士会館バンケットルーム
202号室
東京都千代田区神田錦町3―28
Tel 03（3292）5936
URL http://www.gakushikaikan.co.jp/
会場までのアクセスは、案内状に同封の詳しい地図を参照

会　費　男性、女性とも8,000円
（年会費2,000円含む）
新卒生の皆さんは無料招待

事務局　高谷隆二（S40年卒）
連絡先は会報表紙上部に記載

★総会欠席会員の方へのお願い
年会費「2,000円」をお振込みください
（会費とは会報制作・発送・ウェブサイト運営・総会会場費などに使われる費用です）
郵便振込口座記号
0019-5-362825 「東京三高会」宛

東京三高会
オフィシャルサイト
世代を超えて
http://tokyo-sanko.net/

■東京三高会役員

（任期：平成25年7月～平成27年7月総会まで）

		卒年
名誉会長	下佐　剛	(S28)
顧　問	佐藤　中	(S32)
	野呂　義春	(S32)
相談役	阿部　光成	(S28)
	野口　宥子	(S30)
	前川　十志男	(S31)
	村中　弘	(S32)
	下山　雅章	(S33)
	漆畑　満	(S34)
	堰野端富志男	(S38)
会　長	佐々木　文雄	(S36)
副会長	北川　和子	(S30)
（事務局長）	高谷　隆二	(S40)
	佐々木　賢明	(S40)
	冨田　俊一	(S43)
	畠　雅仁	(S47)
理　事	藤本　モミ	(S29)
	五十嵐　明子	(S31)
（会計）	高坂　忠	(S37)
	田制　則子	(S37)
（会計）	鈴木　朋子	(S38)
	馬場　洋子	(S38)
	三浦　景子	(S38)
（広報）	瀬戸口　玲子	(S41)
	望月　福子	(S42)
	岸　綾子	(S46)
	坂田　俊英	(S55)
	田中　優子	(S58)
	辻　まり子	(S47)
監　事	野坂　和夫	(H5)
	川原　淳	(S55)